

●ラグビーW杯

今年、日本中を包み込んだ明るい話題と言えば、やはりラグビーW杯。
アイルランドやスコットランドなど強豪国に立ち向かい、
次々と打ち破る日本チームの大活躍に、胸を躍らせて急増したのが「にわかファン」
あちこちでラグビー談義が交わされた。

試合運びのほかに驚いたのが、ラグビーの代表資格を得るルール。

「外国の人でも、その国に 3 年以上続けて住んでいれば代表になれる」
とのこと。

だから日本チームも外国の人が半数以上いて、
最初は正直「何か、日本代表っぽくない」とも感じたが、そのうち、
「これ、なかなかいいかもしれない」、「いや、相当いいなあ」とも思
えてきた。

（国籍に関係なく、）そこに生きる人たち皆で作るのが、この社会なのだから。

今年の流行語大賞は、ラグビーのスローガン「ONE TEAM」

本校のラグビー部も、合同チームで他校の仲間と一緒に秋の大会を勝ち進んだ。
あっぱれ。



●ノーベル賞の受賞

そして、明るい話題は、去年に引き続きサイエンスの分野でも。

今、スマホ、携帯電話などに使われている電池は「リチウムイオン電池」というもの。

電圧が高いことが特徴。普通の乾電池は 1.5V、リチウムイオン電池
はその約 3 倍の 4.2V。しかも、小さくて、軽い。

それゆえ、電子機器を持ち運ぶ“モバイル文化”の原動力となった。

その開発者たちに、ノーベル化学賞が贈られた。

受賞者は 3 人。 3 人 3 役。

- ① 高い電圧を得るために、リチウムという金属を初めて電極に使っ
た人、ウィットニングガム氏。
- ② しかし、リチウムは水と激しく反応し、爆発する危険性もあった。
そこで、リチウムを金属単体としてではなく、リチウムイオンを含む安全な化合物とし
て使ったのが、グッドイナフ氏。コバルト酸リチウムという形で、正極に使った。
- ③ 残った負極に炭素繊維を用いて電池の型をつくり、実用可能にしたのが、
日本の 吉野 彰（よしの あきら）氏（吹田市出身、旭化成）

ノーベル賞は極めて高い山。土台が広く、しっかりしていないと、山は高くなれない。

受賞した 3 人の他に、この研究を支える多くの人の努力と貢献があったことは間違いない。
縁の下の力持ち的な、多くの科学者・技術者の試みが、世界を前に進めている。

これも「ONE TEAM」



●さつき ONE TEAM

このあと、皆さんが受け取る成績表には、2学期の努力の跡が表れている。
真摯に受け止め、自分の取組みをしっかりと見つめ直してほしい。
もし、今はいろいろ調子悪かったとしても、くよくよせず。前を向いて進もう。
ノーベル賞を受賞された吉野さんは、こうっておられます。
「大きな壁にぶち当たったときは、「なんとかなるわ」と思える柔らかさが必要」

一年の計は元旦にあり。
元日の朝、早起きして、新年の誓いを立ててみよう。

皆さんも、周りには仲間がいっぱい。
切磋琢磨し、力を合わせて、道を切り拓いていこう。
皆さんが「さつきONE TEAM」となって
前へ前へ進むことを期待して、
第2学期終業式の言葉とします。
では、よいお年を。

